

年頭所感 2022

公益社団法人 北海道臨床工学技士会
会長 大宮 裕樹

年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は小康状態ではありますが、新たにオミクロン株という変異株により感染拡大が心配されております。我々医療人として5度の感染ピークを乗り越えながら、徐々にポストコロナの様式に変化してきております。

今年度の第32回北海道臨床工学会は対面も視野に入れた企画をしておりましたが、WEB開催に変更し演者や参加の皆様には物足りない思いをさせてしまったと思っております。

昨年度より導入した支部制につきましては、各支部長の声掛けによりWEBセミナーの企画が執り行われ各支部内でのWEBを介してですが顔の見える交流をされたかと思えます。

今年こそは対面事業によりこの2年間の滞った交流を復活させ、本来目的としていた北海道内の臨床工学技士のつながりを強固にできるよう取り組んでいきたいと望んでおります。

さて、昨年10月1日より臨床工学技士法が改正され「臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修（告示研修）」が日本臨床工学技士会により開催されております。医師働き方改革に伴うタスクシフトによる臨床工学技士の業務拡大のために国家資格のUPDATEが必要になります。皆様が専門としている業務内容により更新を判断される方もいらっしゃるかと思いますが、厚生労働省が各職種に法改正を進めた事案としてタスクシフトの成果は期待されていますが、同様にそれ以上に受講した人数（受講率）が評価の対象になると私は思っております。今後、受講率がこの度の法改正に不足とされている部分をさらに進化させる後押しになるかと思っておりますので、北海道臨床工学技士会会員約1400名だけではなく非会員も踏まえ全道の臨床工学技士に告示研修を受講していただき、我々の意気込みをアピールできるよう道臨工としても取り組んでまいります。

今年から札幌にて120名の枠で実技研修が開催される予定です。研修機材の数の都合東京を中心とした研修会開催となっており、北海道では年1回の開催が現在の予定となっております。道臨工会員約1400名のうち半数も日臨工会員ではないということも、年1回開催の原因となっているかと考えております。我々臨床工学技士の未来を明るくするために、日本臨床工学技士会と日本臨床工学技士連盟への支援は必須であり、個人ではできないことを必死に頑張ってもらえる各団体の役員、それを支援する会員の力で進化し続けることが良い循環につながります。まずは会員となって各団体の活動を見て応援していただきたく思います。

新しい年が皆様にとって充実した佳き年となりますことを祈念いたしまして、年頭に当たってのご挨拶といたします。本年もよろしくお願いいたします。